

## 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	4570600298
法人名	医療法人社団慶城会
事業所名	グループホーム仰星台 1号館・2号館
所在地	宮崎県日向市大字塩見10946-1 (電話) 0982-55-8028
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 21年 8月 21日

## 【情報提供票より】(21年7月31日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 12月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 15人, 非常勤 0人, 常勤換算 15人	

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	階建ての 1階 ~ 1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有( 円) <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

## (4) 利用者の概要(7月31日現在)

利用者人数	18名	男性 4名	女性 14名
要介護1	5名	要介護2	3名
要介護3	2名	要介護4	3名
要介護5	5名	要支援2	名
年齢 平均	84.1歳	最低 70歳	最高 98歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	瀧井病院 内山歯科 武富皮膚科
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は自然豊かな小高い丘の上に建ち、隣接した関連施設と連携を図っている。母体が医療施設の為、医療連携を取りやすく定期的な往診や、終末期に対しチームで支援する体制も整っている。また、運営者や管理者は人材育成に積極的に取り組み、法人内外の研修に数多く参加させ質の向上を図ると共に、利用者一人ひとりの生活歴や能力に応じ、役割や楽しみごとの支援を行い、その人らしく安心して暮らせるよう支援している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 市町村との連携については、担当者との連携を深め、事業所の夕涼み会に招待する等積極的な取り組みがある。運営推進会議でも意見をもらったり、事業所の問題発生時はアドバイスをもらう等、連携体制が整っている。また、居心地良く過ごせる居室の配慮についても、馴染みの家具や使い慣れた椅子があり、本人が心地よく過ごせる居室作りに配慮がなされおり、改善の取り組みが実施されている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は職員全員で取り組み、評価の意義や目的についても理解できている。自己評価後ミーティングの中で改善課題についての話し合いが行われ、さらなる質の改善への取り組みがある。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議には、自治会長、民生委員、市の担当者、消防団、利用者家族等幅広い参加がある。特に利用者家族の参加が多く活発な意見交換が行われ改善に向けた積極的な話し合いが行われている。外部評価の結果報告や、改善課題に対する積極的な取り組みがある。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 運営推進会議には、多数の家族参加があり、率直な意見交換がなされている。また、第三者機関として、同施設内の支援事業所を通じて意見を引き出している他、玄関に意見箱を設置し出された意見や、苦情に対して検討結果を文書で回答する体制が整っている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、回覧板等で地域の情報を取り入れ、行事の際は届け物をしたりして交流を図っている。また、ホームの夕涼み会には多数の地域住民の参加があり楽しんでもらうなど、地域とのふれあいを大切にしている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念を基本とし、ホーム独自の理念を職員全員で作り上げている。地域の中でその人らしく暮らしていけるよう、一人一人の個性や尊厳を重視した理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念について日々のミーティングの中で話し合い、具体的なケアの実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し回覧板を回して顔つなぎをしている。災害の際は避難場所として提供したり、地区の行事の際には届け物をしたりして交流を図っている。また、ホームの夕涼み会では多くの地域住民参加があり、地域とのふれあいができている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で取り組み、評価の意義や目的についても理解できている。また、毎年自己評価することでケアのマンネリ化を見直し、質の改善を図る取り組みがある。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3か月に1回開催し、参加メンバーとして、利用者家族、市町村担当者、区長、民生委員、消防団等幅広い参加がある。外部評価の結果報告やホームの問題点、家族の意見などが協議され、サービスの質の向上に努めている。また、玄関に自己評価結果を設置しいつでも閲覧できるようにしてある。		運営推進会議が、2か月に1回定期的に行われ、今後さらに充実するよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には市の担当者の参加があり、要望や意見をもらっている。また、問題点発生時は連携を図りアドバイスをもらう体制も整っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の暮らしぶりや健康状態について報告している。遠方の家族に対しては、毎月の請求書送付に合わせて、近況を報告している。金銭管理についても出納帳の写しを添付し送付している。また、職員の異動については、ホーム便りで報告がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には多数の家族参加があり、意見を引き出す努力がなされている。また第三者機関として、同施設の支援事業所を設けていることを伝えている。また、出された意見や苦情に対しては、文書で結果を報告する取り組みがある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での職員異動に対し、関連施設の行事に利用者や参加したり、散歩コースで訪問し交流を図るなど、関連施設の職員と馴染みの関係作りに配慮し、職員異動に伴う利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者や管理者は人材育成に力を入れ、全職員を対象に法人内外の研修に積極的に参加させている。また、研修結果は毎月行われる勉強会や報告書で共有する取り組みがある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県北のグループホーム連絡協議会や日向地区のグループホーム管理者会議に参加し、勉強会や情報交換を行いサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の多くが法人内施設からの入居となっており、職員も普段から交流を図る取り組みがある。また、関連施設の代表者が連携を密にし、入居前に利用者や家族にホームを見学してもらうなど不安を取り除く工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から団子の作り方や詩吟を学んだり、一緒に料理の下ごしらえをしながら味付けの分量を学ぶなど、人生の経験者として学び、共に支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の話を良く聞き、話の中から思いを引き出す努力をしている。また、意思表示できない利用者に対して、表情や態度で思いを引き出し、情報を共有しながら日々の支援に役立っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成にあたっては、担当者だけで作成するのではなく、毎月行われるカンファレンスの中で協議しながら作成している。また、家族の面会時に希望を確認し介護計画に反映する取り組みがある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しについては、昨年外部評価で指摘を受け、3か月に1回の見直しを行っている。また、毎月のミーティングでプランについての話し合いを行っているが、モニタリング記録は3か月に1回となっている。	○	安定しているような場合においても、月に1回程度は新鮮な目でプランに沿ったケアの遂行状況や効果など確認してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じ、通院の送迎や買い物、墓参りなど支援する体制がある。現在、家族の希望でショートステイも受け入れ事業所の多機能性を活かし柔軟な対応を行っている。		
。					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人母体の医療機関が主治医となっており、月2回の往診を行い健康管理している。また、本人や家族の希望時はかかりつけ医を優先し医療連携を図る取り組みがある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向け、医師や家族と繰り返し話し合いの機会を持ち、医療連携を図りながらホームで出来ることを説明し、チームで支援する取り組みがある。また、看取りの際は家族に同意を得た記録がある。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人一人に対し、人生を重ねてきた人として尊重し、優しい言葉で声かけ笑顔で接している。個人の記録物については、第三者の目に触れないよう事務所の棚に保管してある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は決して利用者に強制することなく、一人一人のペースや体調に合わせゆとりを持った対応がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に応じて、食事の下ごしらえや、盛り付けなど手伝ってもらい、利用者と職員が同じテーブルを囲んで一緒に食事を楽しんでいる。また、嚥下障害のある利用者に対し栄養士の指導を受け、食事形態を変更し支援する取り組みがある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外、毎日入浴を行なっている。拒否がある利用者に対しては、無理強いせず、利用者に合わせた対応をしている。入浴を楽しんでもらう為に、入浴剤を使用したり、順番を変更するなどの工夫がなされている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の自主性を尊重し、能力に応じて、洗濯や食事の準備、後片付けを一緒に行っている。また、趣味を活かした編み物や漬物などの指導を受けたり、天気の良い日には散歩やドライブ、買い物などを楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物やドライブなど利用者の希望に沿って支援している。また、歩行が困難な利用者に対しても、車椅子で散歩を行う取り組みがある。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者や職員は、居室や玄関に鍵をかける事の弊害を理解しており、日中は玄関や居室には鍵をかないで見守りを行い安全性に配慮している。また、近隣の方々にも理解を深め、見守り、声かけや連絡をしてもらえる関係が築けている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、地元の消防団や民生委員など多数の参加があり定期的に行われている。また、夜間の訓練も行うなど積極的な取り組みがある。緊急時の連絡体制についても電話の前に分かりやすく掲示し、近隣施設の協力体制も整っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者の、食事量や水分摂取量を把握し、水分が不足している利用者に対してはこまめに水分補給を行っている。また、部屋にペットボトルのお茶を準備しいつでも飲めるよう配慮している。食事制限の必要な利用者については、隣接する施設の栄養士に指導を受け対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの共有空間には畳の部屋やソファが設置され広々とした空間となっており、利用者と職員と一緒に添い寝したりして家庭的な雰囲気がある。壁には季節を感じる装飾や写真が掲示されゆったりとした時間が流れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みの家具や使い慣れた椅子の持込みがある。好みのグッズで部屋を飾ったり、家族写真を飾るなど居心地良い居室となっている。		